

第3学年 音楽科「集まれ動物ミュージック ～いろいろな声で表現して遊ぼう～」

授業者 高塚 仁志

<p>前時までの学び</p>	<p>「ニャー」だけを使って猫の様子を表す「ニャーミュージック」をつくることを通して、イメージに合った音楽をつくるための「声」（音楽を特徴付けている要素）と「技」（音楽の仕組み）の工夫を獲得しました。そして、グループごとに表したい動物の様子や気持ちをイメージしました。</p>
<p>〈課題設定以前〉 1 学習課題を確認する。</p>	<p>発表会への道を見ながら、前時の学習の流れや、これから発表会に向けてイメージに合った動物ミュージックをつくっていくことを確認しました。題材の全体像を視覚的に分かりやすく示すことで、見通しをもって学習に取り組めるようにしました。</p> <div data-bbox="422 721 1109 817" style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>「声」や「技」を使うとイメージに合った音楽をつくれたので、グループの音楽づくりにも生かしたいです。</p> </div> <div data-bbox="1129 629 1417 824" style="float: right;">  </div> <div data-bbox="223 828 1372 913" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> <p>学習課題：イメージに合った動物ミュージックをつくらう</p> </div>
<p>〈課題解決中〉 2 イメージに合わせた表現を個人で考えた後、グループで交流する。 3 音楽を構成して楽譜に表す。</p>	<p>グループで設定した登場人物の様子や気持ちを表すための工夫を「声」&「技」の工夫カードに書いて交流しました。工夫の理由を伝え合ったり、実際に声に出して試したりすることで、イメージに合った音楽を考えていきました。</p> <div data-bbox="422 1064 821 1220" style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>叱っているねずみを表すには声を長くしたらいいと思うよ。長い声は「こらー！」って言っている感じがするからだよ。</p> </div> <div data-bbox="842 1066 1098 1227" style="float: right;">  </div> <div data-bbox="1129 1064 1417 1220" style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>私は大きい声がいいと思ったよ。実際に声に出して比べてみよう。</p> </div> <div data-bbox="422 1243 694 1456" style="float: left;">  </div> <p>交流したことを基に音楽を構成していきました。それぞれの場面のイメージに合っているかどうか確かめながら、楽譜に表しました。</p> <div data-bbox="710 1366 1412 1456" style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>この場面は「まねっこ技」を使って、たぬきが仲良く話している感じで演奏してみよう。</p> </div>
<p>〈課題解決後〉 4 本時の学習を振り返る。</p>	<p>マイミュージックカードを使って、本時の学習課題を達成するために音楽を形づくっている要素を使うことができたかどうかを振り返りました。本時の学習を通して、よりイメージに合った要素が使えるようになったことを実感することができました。</p> <div data-bbox="422 1668 1125 1758" style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>今日は長い声と「くりかえし技」を使ったから、犬が「絶対だめ！」と怒るイメージに合った音楽ができたよ。</p> </div> <div data-bbox="1157 1541 1417 1765" style="float: right;">  </div>
<p>考察</p>	<p>教師の問いかけや補助黒板により、イメージに合った動物ミュージックをつくるという目的意識は十分にもたせることができていたが、音楽をつくる時間には話し合いが中心となり、声に出して表現する様子が見られなかった。表現の時間を確保したり、実際に音楽を表現することの価値を子供に実感させたりすることができるような授業構成を考えていく必要がある。</p>